

日本痛風・尿酸核酸学会

総会議事録

開催日時：2023年2月23日（木・祝）13:35～13:55

会 場：東京都新宿区市谷本村町4-1

グランドヒル市ヶ谷

金子理事長が議長席に着き、2023年度総会の開催を宣言した。

審議に先立ち議長より本日の出席状況は

会員数 550名 出席者 89名 委任状提出者 269名となっており定款第19条の規定により総会が成立することが報告された。

冒頭に金子理事長より前理事長で名誉会員の小笠原信明先生が2023年2月9日にご逝去（享年89歳）、また同じく名誉会員の齋藤輝信先生が2022年3月15日にご逝去（享年84歳）されたとの報告があり出席者全員で黙祷を捧げた。

はじめに総会長の四ノ宮先生からご挨拶があった。今年は3年ぶりに対面での総会ができてうれしく思う。まだ会員懇親会も2日目もあるのでぜひ最後まで交流を楽しんでほしいとのことであった。

【第1号議案 2022年度決算・監査報告】細山田先生

細山田庶務幹事より2022年度決算内容の説明があった。貸借対照表について当年度は正味財産が約6千万円で、前年度より439万円ほど増加した。次に正味財産増減計算書では、現在会員数は550名で会費収入も横ばいだが、会費未納者が67名いるので、会費納入をお願いしたい。ガイドライン転載許諾料が当年度も550万円ほどあり、正味財産の増加に寄与した。以上より当年度経常収益約25百万円、経常費用約2千万円となっている。財産目録は通帳の記載等と正味財産は一致している。税理士からの確認報告書も受けとっており、板倉監事、嶺尾監事、笹田監事からも監査報告をいただいている。議長が議案1の賛否を諮ったところ、総会出席者全員の賛意を得て決算報告は承認された。

【第2号議案 2023年度予算案】細山田先生

引き続き細山田庶務幹事より2023年度の予算内容の説明があった。経常収入としては前年度実績程度としおり、ガイドライン印税はガイドライン

追補版が出版より1年を経過するため、減額し100万円を計上している。またガイドライン転載許諾費は100万円増額の550万円を計上している。経常費用は対面開催となる今総会の開催費が増額するほかは前年度実績程度としている。以上より、次年度の経常増減は±ゼロを想定しているとのことであった。議長が議案2の賛否を諮ったところ、総会出席者全員の賛意を得て予算案は承認された。

【第3号議案 第58回総会（2025年開催） 会長選出】 金子理事長

金子理事長より、すでに理事会では承認されているが、第58回学会総会の会長として医療法人社団つばさ両国東口クリニック理事長 大山博司先生を推挙することが提案され、議長が賛否を諮ったところ、総会出席者全員の賛意を得て承認された。

【第4号議案 役員改選】 金子理事長

(i) 理事の改選

新規選任1名 加藤雅彦評議員

(ii) 評議員の改選

新規選任5名 今田恒夫先生、柴田茂先生、田村好古先生、
古橋真人先生、山口聡先生

議長が改選案の賛否を諮ったところ、総会出席者全員の賛意を得て承認された。

【第5号議案 活動報告】 金子理事長

1. 令和4年度 学会賞受賞者決定報告

大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 藏城雅文先生に決まり、この後受賞講演をいただくとのことであった。

2. 令和4年度 最優秀論文賞・優秀論文賞決定報告

編集委員会を中心に検討した結果、最優秀論文賞は山形大学公衆衛生学衛生学講座 今田恒夫先生、優秀論文賞はあわら病院内科 大槻希美先生、持田製薬株式会社メディカルフェアーズ部メディカルサイエンス 直江智子先生に決定したことが報告された。この後授賞式を行うとのこと。

3. 若手研究者支援事業報告

2021 年度より若手研究者支援制度を立ちあげた。昨年の 第 1 回若手研究者賞が国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 桑原政成先生に決定し、10 月の第 2 回 WEB 講演会で受賞講演をしていただいた。また 第 1 回若手研究助成は大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 藏城雅文先生、静岡県立大学食品栄養科学部 栄養生命科学科 川上由香先生の 2 名に決定し、研究助成をした。さらに寄付をいただいた富士薬品に感謝状を贈呈した。2023 年度も引き続き支援事業を継続する予定である。

4. 第 56 回優秀演題賞候補演題決定報告

本日午前のセッションにあった優秀演題賞はアブストラクトの一次審査で 6 題が候補演題となった。本日の発表を見て最終審査し、懇親会で最優秀演題賞と優秀演題賞の表彰式をする予定である。

5. 編集委員会報告

2022 年の J-Stage アクセス数は月平均、24,500 アクセスとなり、かなりのアクセスをいただいている。2022 年学会誌の掲載論文数としては総説 2 編、原著 10 編、計 12 編となっている。また今年には編集委員改選の年で加藤雅彦先生、益田郁子先生、松尾洋孝先生、の 3 名の先生が任期満了となり、編集委員で投票した結果、次期編集委員は中山昌喜先生、山岡法子先生、水田栄之助先生に決定したことが報告された。

6. 認定痛風委資格制度委員会報告

2022 年度教育研修会は 1 か月間 web によるオンデマンド形式で行われ、34 名の受講があった。その年の認定痛風医試験 (CBT 形式) は準備を進めていたが受験者がなかった。認定痛風医としては更新 4 名、新規 1 名である。2023 年の教育研修会は昨年同様 web によるオンデマンド形式で 3 演題が準備されている。演者は谷口敦夫先生、益田郁子先生、福内友子先生の 3 名。また委員の交代があり大野岩男先生、長瀬満夫先生、森脇優司先生、瀬戸洋平先生が今年の 3 月で任期満了となり、新任の委員として大坪俊夫先生、大谷直由先生、山下浩平先生、河村優輔先生に就任が決まった。収支も認定痛風医の数も安定しているが、新規の数が少し減っている。

7. ガイドライン広報委員会報告(ガイドライン中国語翻訳版の進捗状

況)

日本より患者数が多い中国でガイドラインを発刊してはどうかという提案が2020年の理事会で承認された。2021年4月に翻訳が完成していたが、出版に関わる費用5万元が翻訳者である常先生に請求される問題が発生し、昨年の理事会と総会で審議して、学会から出版協力金として5万元(約80万円)を内田先生に支払い、内田先生から常先生に送金された。出版に向けて進んではいるが、当初約束していた2022年9月には出版が間に合わず、学会から働きかけて延長契約をした。次の目標は2023年4月だったが、まだ中国における3段階の審査の1審中のため遅れ気味ではあるが、何とか出版まではできる状況である。

8. ダイバーシティ推進委員会(2021年2月発足)報告

昨年の学会総会に合わせて、学会員と参加者を対象に、学会参加に関するアンケートを実施した。web開催だったためかコメディカルや非会員の方の参加が多いという結果になった。今回の学会では本日午後から『多職種でサポートする痛風・高尿酸血症の治療』というテーマでシンポジウムを担当する。このシンポジウムはオンデマンド配信もされる。聴講により単位(日本糖尿病療養指導士、リウマチケア専門職、健康運動指導士)が認定されることになっている。またアンケートを行ったときに託児室の希望があったことから、本学会総会においてはじめて託児室を併設した。引き続きアンケートを行う予定である。

9. 若手委員会(2021年5月発足)報告

最初メンバーの8名に大内基司先生、西宮健介先生、福内友子先生、水田栄之助先生、森川渚先生の5名が加わり、現在13名となった。昨年は5回の委員会を通し、共催シンポジウムの企画、研究発表、Twitter運用の検討などが行われた。その他に、関連学会とのジョイントシンポジウムの企画提案がある。昨年の12月3日に行った第96回日本薬理学会年会シンポジウムや、今年の3月10日に行う予定の第87回日本循環器学会学術集会シンポジウムである。来年の学会総会では若手委員会がシンポジウムを担当するので、今後はその準備も進めていく予定である。

10. ありかた委員会報告

web講演会の継続については、今後も継続していく予定である。内容としては1.画像診断のhands onセミナー(DECTや関節エコーの撮像法)、2.webを用いた外国人との議論の場を創る、3.生成抑制薬と排泄促進薬の使い分けや併用に関しての学会の提言を進めていく、等の意見がある。また

新委員会として『学会交流委員会』を発足することになっている。目的としては今後のガイドライン改訂のために他学会から重要な臨床課題を提案してもらうことや、ジョイントシンポジウムや学会の単位認定を一緒に行っていくことなどがある。関連学会候補としてはガイドライン第3版の作成時のリエゾン学会を中心に29の学会をリストアップしている。そこから必要最小限の学会を選び、相手の学会からのリエゾン委員とそれに対応する当学会からの学会交流委員を選び、その委員同士を介してコミュニケーションを諮るという方法で行う予定。今後全体像をありかた委員会で議論して、それから学会交流委員会を立ち上げ活動していくことになる。

1 1. 庶務幹事報告

認定痛風医名簿の二次利用について、昨年9月にギミックドクターズ・ファイル編集部（ドクターズファイル：主に開業医が自分の病院を基本情報として掲載（約16万件）サイトを運営）より、痛風の診療が可能な医療機関を検索したときに、認定痛風医の名簿に載っている先生方の所属先医療機関を掲載してほしい、またその際名簿の先生方の所属先医療機関のページに「痛風」のアイコンを表示させていただきたいと依頼があった。理事会で検討の結果、掲載のやりとりは医療機関とギミックが直接行う、個人情報には渡さないということを約束した上で、慎重に進めていくこととなった。学会HPアクセス数は今年度、月平均3,700件で前年度の6,300件より減少。

【第6号議案 理事長の交代について】金子理事長

3年間理事長を務めさせていただいた。この学会総会以降は国立病院機構米子医療センター病院長 久留一郎先生に理事長を交代していただくことになった。久留先生は現在副理事長でもあり、これから力を入れていくべきガイドライン第4版に向けてもリーダーシップを発揮していただけたと思う、とのことであった。その後久留先生よりご挨拶をいただき、次の執行部も紹介された。副理事長が市田公美先生と山内高弘先生、庶務幹事が細山田真先生とのことであった。

最後に次回第57回日本痛風・尿酸核酸学会総会長の鳥取赤十字病院副院長 荻野和秀先生よりご挨拶があった。次回のテーマは「未来へそして世界へ」である。会期は雪のリスクを少なくし2024年2月29日（木）から3月1日（金）で例年より1,2週間ほど遅い。場所は鳥取市のとりぎん文化会館で開催予定。今まで米子市で2度程開催しているが、鳥取市は初め

てとのこと。今のところリアル開催で検討しているとのことであった。


その後金子理事長と市田編集委員長による、学会賞授賞式および優秀論文賞授賞式が執り行われた。

閉会挨拶 金子理事長

上記議事録の内容が正確であることを証する為、定款第 21 条の規程により議長及び出席理事 2 名が議事録署名人としてこれに記名押印する。

令和 5 年 2 月 23 日

議長（理事長） 金子 希代子 

議事録署名人（理事） 久留 一郎 

同 細山田 真 